

「第11回 史跡及び名勝 飛鳥京跡苑池保存整備・活用検討委員会」及び  
「第13回 飛鳥宮跡活用検討委員会」の開催概要

**【報告】**

**第11回 史跡及び名勝 飛鳥京跡苑池保存整備・活用検討委員会**

○苑池南池の遺構展示について討議を行った結果、以下の方針が示された。

- ・遺構保護のための盛土の上にガラス繊維コンクリート（GRC）による石積遺構を再現することにより、天武期（飛鳥浄御原宮）の南池の規模感を表現する。
- ・護岸石積の再現方法について比較検討した結果、遺構の欠損部も残存部を参考に想定した石積のGRCによる再現を基本とする。
- ・ただし、池護岸南東部の石積が崩れた状態で遺構が検出した部分、西部の遺構がほぼない部分については、池全体の石積復元イメージ数案をイメージパース等で比較した上で工法を選択する。
- ・遺構再現部と想定復元部は現地で見分けられるようにする必要がある。
- ・池護岸及び中島護岸のGRCによる復元により池全体の面積が縮小するが、遺構データを縮小して再現するのではなく、遺構欠損部などの一部を省略する方法を採用し、個々の石の大きさの再現を優先する。
- ・池水の給水元は、湧水、天水、及び補完するための上水道とする。

**第13回 飛鳥宮跡活用検討委員会**

○飛鳥宮跡保存活用計画（検討案）について審議を行った結果は以下のとおり。

- ・「活用」「運営体制の整備」等について引き続き検討する。
- ・現明日香村役場の移転後の土地をエントランス機能やガイダンス機能を担う場所として活用することを具体的に記述する。

**1. その他の主な意見：**

**飛鳥京跡苑池**

- ・石積の想定復元については、学術的がい然性の整理が必須である。
- ・ICT技術を活用した展示方法も組み合わせるべき。
- ・令和5年に予定されているICOMOS視察における現場での印象が世界遺産登録推薦に与える影響を考え、世界遺産登録に向けたスケジュールを見据えた事業展開が必要である。

**飛鳥宮跡**

- ・飛鳥京から始まり、藤原京・平城京へと宮都の構成や規模が変遷していく過程をこの地で示すことが日本の歴史への理解を深めることになる。
- ・修学旅行生は学生だけで班行動する。わかりやすい表現で興味を持てる内容での説明が必要。

2. 日 時 : 令和2年7月31日(金) 10時30分～15時30分

第一部 10:30～12:30 史跡及び名勝 飛鳥京跡苑池保存整備・活用検討委員会

第二部 13:30～15:30 飛鳥宮跡活用検討委員会

3. 場 所 : 奈良県橿原考古学研究所 3F 会議室

4. 出席者 :

飛鳥京跡苑池 田辺、青柳、小野、佐野、西本、森川の各委員

飛鳥宮跡 田辺、青柳、黒田、小林、櫻井、染川、田島、寺西、古瀬、  
増井、松村、森川の各委員

オブザーバー 文化庁、国営飛鳥歴史公園事務所

関係者 南部東部振興課、文化資源活用課、明日香村

事務局 公園緑地課、文化財保存課